

2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 3 月 22 日

所属	人間社会学部	職名	教授	氏名	吉竹弘行
研究課題	「養蜂事業による地域活性化に対するサポートの仕組み」				
研究キーワード	地方空港、養蜂事業、地球温暖化ガス削減	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	15. 陸の豊かさを守ろう	17. パートナリーシップで目標を達成しよう	

1. 研究成果の概要

本研究は 2021 年度の学長プロジェクト 3 の一部として下記 4 点を目的として実施するものである。

- ①地方創生・SDGs 推進のための本学・あいおいニッセイ同和損保(株)(以下「AD」)提携協定の第一弾事業
- ②地方創生や SDGs 推進の取り組みとして養蜂事業を梃子とした福島空港の活性化への貢献
- ③高校・大学連携を軸に、地域の若者参加による次世代地域創生人材の育成への貢献
- ④「だいがくアシスタンス」という新しい研究資金調達システムの実用化

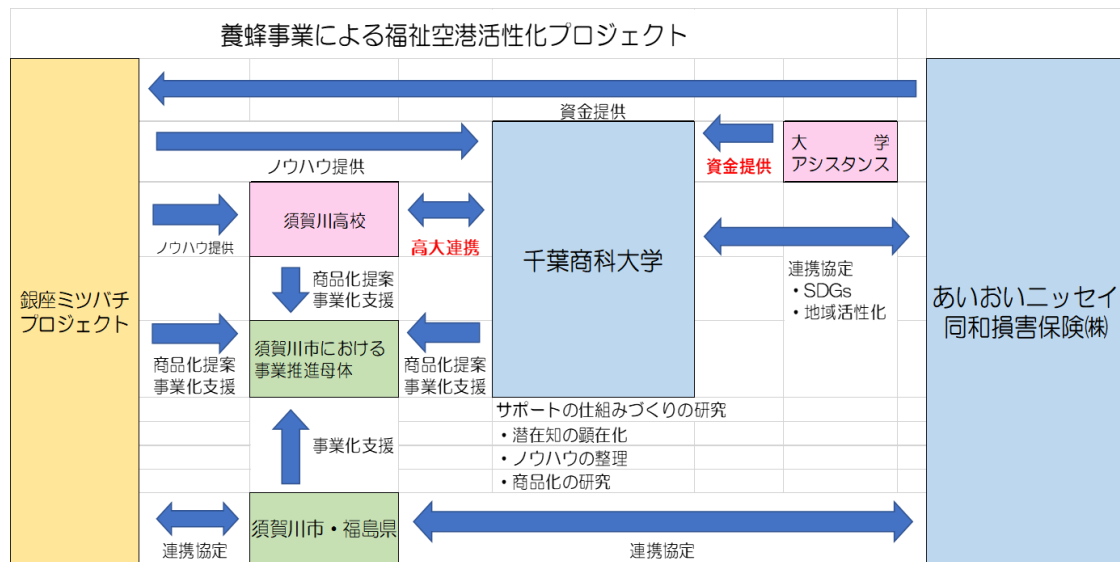
一昨年締結した連携協定に従い、AD と活動実施のための環境整備に注力したが、コロナ禍により現地訪問等の対応を十分に図る事ができず、当初予定した全ての項目についての成果を上げることができなかった。

しかしながら、須賀川市、現地養蜂事業者グループ他への訪問と、本学同窓会の協力も得ることで、③の目的である須賀川高校を高大連携のパートナーとして確定することができ、④の目的である「だいがくアシスタンス」(研究助成支援システム)に 13 万円の寄付を集めることができた。

その結果、須賀川高校校長・担当教員と本学学生とのプロジェクト推進についての、本学での意見交換、銀座ミツバチプロジェクト他による須賀川高校での研修会を開催(小職は現地参加、学生はオンライン参加)する状況までプロジェクトを進展させることができた。また当該研修会において福島県・ANA との意見交換機会を持って、空港支援というテーマへの環境が固まりつつある。本件についてもコロナ禍で面談機会の延期が発生した。

なお商品化研究に関して、現地養蜂事業者の収穫した蜂蜜を活用して UD で販売する学内レシピコンテストを実施したところ、4 学部・11 グループの応募があり、4 つの入賞作品を決定した。今後最優秀作品については、UD と調整し、商品化を図る予定である。また須賀川高校側でも 3 月 15 日に現地のパティシエと共同開発する研究会を実施し、第一次レベルの商品化には着手ができた。

この結果、下図のスキームを 2022 年度に確立し、研究目標の達成が可能な状況を、今年度でほぼ作り上げる目途をつけることができた。2022 年度には、県・市及び現地商工会等の巻き込んだ体制を確実にし、空港活性化のためのパッケージツアー・プログラム等を開発し、研究成果の取りまとめを行いたいと考える。



だいがくアシスタンスによる寄付についても、活動が少しずつ具体化できてきつつあり、成果が出てくると期待している。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）
学長プロジェクト 2021 年度第 7 回公開講座において、当該プロジェクトを発表した。

3. 主な経費

旅費・レシピ試作用の蜂蜜購入費等については、学長プロジェクト予算等で対応したため、パソコン用紙・インク等の事務用品以外の支出は、個人研究費としては発生していない。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【その他の助成金】

大学アシスタンスとして受け入れ資金有(4 件、13 万円)。

以上